より深く知ってほしい

歴史・文化ガイドの会

初の修旅受け入れ

歴史文化ガイドの会（砂川玄正会長）は7日、宮古島を修学旅行で訪れている東京の私立駿台学園高校を「平良検道史跡めぐり」に案内した。駿台学園高は2日間に分けて1883人が来島するが、同会が本格的に修旅を受け入れるのは初めて。担当したガイドは史跡を案内しながら生徒たちに宮古の歴史文化を紹介した。

この日は第1陣の生徒92人が午前10時40分着の航空便で宮古入り。すぐに同会の案内で仲宗根豊見親・知利真良豊見親の墓、大和ガード、ドイツ皇帝博愛記念碑など10カ所を見学した。同会のガイドは「宮古島のことを学んでほしい。こちらも改めて勉強する機会とした」と話していた。

今回の史跡めぐりは修行社を通して紹介された。同校は「単なる観光を楽しむのではなく、修学旅行であることを重視して歴史や文化、自然を学ばせたいのでガイドを頼んだ」としている。また午後は農家でのホームビジットで農業体験とともに地域住民と触れ合った。きょう2日目は池間島や宮古島海中公園、東平安名崎などを訪れる予定。

修学旅行の高校生に史跡を解説する歴史文化ガイド＝市内平良、知利真良豊見親の墓